第３学年　社会（公民的分野）学習指導案

１　単元名　公民的分野　現代の民主政治と社会「地方政治と私たち」

２　単元の目標

・地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利について理解することができる。（知識及び技能）

・地域の政治について、住民自治を基本とする地方自治の考え方について理解することができる。（知識及び技能）

・地方公共団体が果たす役割について、財源の現状や少子高齢社会など現代の特色を踏まえ、財源の持続可能性と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）

・よりよい地域社会の実現を見据え、地域の発展に寄与しようとする住民としての自治意識をもち課題を追究することができる。（学びに向かう力、人間性等）

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解している。 ・地方公共団体の財源を支える収入について、資料の読み取りを通して理解している。	・住民参加が重要な理由について、民主主義の観点から考察している。 ・自分が住む地方公共団体の課題を調べ、解決のためにできることを考察、構想し、表現している。	・身近な地域のまちづくりについて、住民自治の視点をもち、地域の担い手として主体的に社会に関わろうとしている。 ・より良い地域社会の実現を視野に、そこで見られる課題を多様な観点で捉え、主体的に追究、解決しようとしている。

４　単元の構想

（１）生徒について

本単元では、地方自治を扱う。その際、生徒にとってより身近な地域である新潟市中心部の実態を把握し、今後のあり方を考えることで、地方自治をより具体的なこととしてイメージしやすくしたい。●●中学校区は、多くの商業施設や住宅地が広がっている。●●が近く、様々なイベントが開催され、太鼓を演奏するメンバーとしてそれらに参加する生徒もいる。●●には県内外からの来客があり、多くの人や車が往来することを普段から見ている。コミュニティ施設や図書館など社会教育施設が充実している便利なエリアである。朝と夕方の登校・下校の時間帯により商業エリアの人口に変化があることを実感している。

このように活気ある地域で生徒たちは暮らしている。一方、多くの地域で見られるように、●●中学校区でも人口の減少が起きている。特に、年少人口の減少が顕著である。新潟市のデータでは、学区の年少人口について、２０１６年の３，０８９名から２０３６年に２，３５９名になることが予想され、この場合の減少率は約２３．６％となる。また、生産年齢人口については、２０１６年の１８，４５０人から、２０３６年には１５，６７０人となることが予想され、この場合の減少率は約１５．０％となる。本単元の中で、地域の特色や課題、また地域の強みについて、生徒が暮らす新潟市中心部の生活環境に焦点を当て、生徒が考えることで、新潟市の地方自治のあり方や課題について考える。その際、普段の生活の中で獲得してきた知識を生かし、地域住民が考える課題、地域の実態を踏まえた学習活動としたい。本単元を通して、現代社会の理解を深めるとともに、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を育成したい。

（２）単元について

本単元「地方自治とわたしたち」では、地方自治の基本的な考えや地方分権、地方自治の仕組み、地方公共団体の課題、住民の声を活かした政治の実現に向けた取組といった内容で構成されている。

本単元は，中学校学習指導要領公民的分野の内容「C 私たちと政治」の(2)「民主政治と政治参加」に該当する。ここでは，民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、「地方自治の基本的な考え方について理解すること」を目標

とする。その際、地方自治の仕組みや住民の権利や義務について理解すること」が求められる。また、地方自治や我が国の民主主義の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することも求められている。民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加と関連付け、多角的に考察・構想し、表現する力を身に付けることがこの単元の目標である。

学習指導要領における公民的分野全体の目標の一つとして、「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと、国民主権を担う公民としての自覚を深めること」が掲げられている。約３年後に選挙権を得る生徒たちが、主権者として政治に主体的に参加できるようになるよう、中学校段階でも生徒の意識を高める必要がある。

地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による自治が基本となっている。「人々の声を政治に生かすために、私たちに何ができるだろうか」という課題を、単元を貫く課題とし、これまでに学習した国民主権、政治と民主主義や現在の社会の特色である少子高齢化や財政とも関連づけながら単元の課題に取り組ませたい。

（３） 指導の工夫

・「地方自治」の単元で生徒が学習課題に取り組む際に、より自分たちの地域のこととして捉えられるよう、地域の住民の声を取り入れる。また、自分たちが出した意見を可視化する。

・自分たちの将来に関わることとしてより実感できるよう、学区の人口データや資料、等を活用する。

・学習成果を認識するため、自己評価とともに他者からの評価を取り入れる。他者の考えで参考になった箇所や考えを共有する。

・研究テーマの一つである「見方・考え方」を働かせることができるよう、他の生徒たちの生活から得た知識や、様々な年代の地域住民の声、地域の実態、生徒が地域生活の中で気が付いたことや普段考えていることに注目する。

5　単元の指導計画　（本時７時間／７時間）

時	学習のねらい（○）と主な学習内容（・）	評価			
		知・技	思・表	主	評価規準
1	【私たちの生活と地方自治】 ○地方自治がどのような考えに基づいているか理解する。 ・具体的な地方公共団体の仕事について把握する。 ・地方公共団体によって特色ある課が設置されている理由を考える。 ・地方自治が「民主主義の学校」とよばれる理由を理解する。	○			・地方公共団体の役割について理解している。 ・地方自治が「民主主義の学校」と呼ばれる理由について、地方自治の原則に着目し、理解できる。
2	【地方自治の仕組み】 ○地方自治での二元代表制の特徴について、国の政治との違いに着目して考察し、表現する。 ・地元の首長や議会の写真等の資料を提示し、どのようなことをする人や場所であるか確認する。 ・地方公共団体の特色ある条例について、なぜそのような条例が出されているかを考える。 ・直接請求権とはどのような権利であるか確認する。		○		・地方議会や首長が果たしている役割について理解している。 ・地方自治での二元代表制の特徴について、国との違いに着目して図や資料から読み取り、表現できる。

3	【地方公共団体の課題】 ○全国の地方公共団体にはどのような課題があるか理解する。 ・熊本市は、なぜ寄付制度を作ったか、資料から読み取った情報を参考に文章にまとめる。 ・新潟市と全国の財政状況を比較し、新潟市の財政状況の特徴を捉える。		○	○	・各地の地方公共団体にはどのような課題があるかについて資料を読み取り考える。 ・自分たちが住む地方公共団体の課題を、資料やデータを基に把握し、今後も起こることを予測することができる。
4	【住民参加の拡大と私たち】 ○住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解する。 ・住民の声を生かした政治を実現するためには、どのような方法があるか事例を調べる。 ・自治会など身近に活動していることについて、地域の情報やインターネット、広報誌等を活用して調べる。	○			・住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解している。 ・民主政治と政治参加について、身近な例を調べ、グループで紹介し合い、様々な活動が行われていることを理解できる。
5	【身近な地域の現状と課題①】 ○身近な地域のまちづくりに関心を持ち、地域の担い手として主体的に社会に関わろうとする。 ・●●中学校区の地域の課題や住民の願いを、アンケート等の情報から把握する。 ・普段の生活の中から感じている、●●中学校区の地域の強みや魅力、課題を表現する。			○	・地域の魅力や課題の考察について、普段の生活から考えたことを意識して取り組み、地域の担い手として地域の現状に興味をもち、解決すべき課題であることをとして捉えることができる。
6	【身近な地域の現状と課題②】 ○地域のまちづくりに関心をもち、新潟市が行っている住民参加の工夫や、民間をも含めた方法について知ることができる。 ・地域の課題とまちづくりについて、全国の事例も参考にし、解決の方法としてどのようなものがあるか知る。 ・●●中学校区をよりよい地域にするために必要なことを考え、アイディアを表現する。			○	・地域の課題を把握し、課題を解決するための方法に関して、これまでに得た知識や ICT を利用して調べた情報をもとにまとめることができる。
7	【よりよい地域の在り方】（本時） ○新潟市の中心部をより魅力ある地域にするために、私たちにできることは何か考えることができる。 ・各自が持ち寄った地域のまちづくりのアイディアを班で紹介する。 ・住民自らが地域の在り方を考えていくことが重要な理由を、これまでの学習を踏まえて表現する。			○	・私たち自身が地域の課題を解決する主体者であることを理解し、政治参加への意識をもつことができる。

6　本時の計画（７時間目／全７時間）

（１）本時のねらい

・自分たちの暮らす地域の住民が市政に期待すること、地域の住民が感じている課題を把握し、自分たちで解決すべき事柄として地方の行政を捉えることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】

・より良い地域社会を実現するために、そこで見られる課題を多様な観点で捉え、地域の一員として主体的に追究、解決しようとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

（２）本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応	■評価・○留意点
【導入】8分 1、本時間で考える課題について確認する。	T1:地域の住民が、地域社会に望んでいることとして、どのようなものがあったでしょうか。 S1:少子化対策、高齢化対策、交通の発展、産業の発展など。 T2:私たち中学生の住民が考えるこの地域の強みとは何でしょうか。 S2:交通アクセスがよく人が集まりやすい地域であること。 S3:お店が多いため住みやすく、便利な生活ができること。 T3:地域の住民の方のこれらの意見や、班員の提案を基に、どのような地域を目指したらよいか考えよう。 T4:各自が用意した理想の●●中学校区の姿を紹介し、より魅力のある地域にするにはどうしたらよいか考えましょう。	○アンケート結果を確認する。 ○複数の分野について回答があったことを全体で共有する。 ○●●中学校で取り組んでいる地域の行事や委員会の例にも触れる。
〈学習課題〉 新潟市の中心部をより魅力ある地域にするために、私たちにできることは何だろうか。		
【展開】35分 2、各自が考えたアイディアを班内で紹介する。（18分） 優先順位を考える（10分）	T5:グループのメンバーが考えてきたアイディアを紹介しよう。それらを参考に、特に重点を置いた方が良いと思うものから順位をつけよう。 S4:●●中学校のエリアの実態として、商業が盛んだと言える。一方で、地域の商店街の店舗が減少している面もある。地域全体を盛り上げる活動を行いたい。 S5:●●中学校のエリアは、新潟市の中でも特に交通アクセスが良いので、他の市町村や県外からも人が集まりやすい。そのようなメリットを十分に生かせるように、首都圏に向けてアクセスの良さをPRしたい。 S6:●●中学校のエリアでは、若い人たちがたくさん買い物や遊びに来たりしてい	○4人または5人班内で紹介する。 ○「産業」、「福祉」、「少子化対策」、「まちなか再生」、「環境保全」、「地域産品発掘」など、各自が決めた分野を紹介する。 ○実在のまちづくりプランを参考としてもよい。 ○班内で、生徒それぞれが提案する。

	る。しかし、少子化も起きていて、実際に私たちの住んでいる地域でも人口が減っている。新潟に留まる人たちが増えることが重要だから、少子化対策は優先順位を高くしたい。	○学習課題を踏まえながら、それぞれの提案を聞き、優先順位をつける。
3、各班からの優先順位を発表する。（7分）	S7:私たちの班の考える優先順位の高いことは、「地場産品発掘」。新潟市に多くの食品や物品をPRすることは魅力アップに効果があるのではないかと考えたから。 S8:私たちの班の考える優先順位の高いことは、「交通の充実」を図ること。新潟市は日本海側では特に大きな都市。アクセスをさらに良くして集客を目指すことが大切。	○班内での発表を聞いて、それぞれの発表で良い点や工夫がみられる点、新潟市の実態として適している点を挙げる。聞きたい点があれば、提案者に質問する。
	T6:それぞれの提案で良いと思った点、更に知りたいと思った点は何でしょうか。 S9:新潟市に今あるものに注目できている点。他にも何が生かせるか知りたい。 T7:新潟市の今後のまちづくりにする際、大切な視点は何だろうか。 S10:新潟市の今ある強みを生かすこと。 S11:財源に限りがあること。 S12:新潟市の産業の特色を生かし、更に力を入れること。 S13:新潟市の人口の増減を考えること。 S14:地域の人たちの声を取り入れること。	○各自ロイロノートに記入する。 ○地方自治の実現のために、住民選挙権、被選挙権、直接請求権、住民投票、町内会、NPOなど、まちづくりへ参加以外にも住民の声を生かす方法についても確認する。
【終末】7分 4、課題に対するまとめを行う。（2分）		○班から出た意見をもとにまとめを行う。

〈まとめ〉
交通についてはアクセスを更に良くすること、観光については、新潟市の魅力を PR することなどが考えられる。
新潟市の強みや課題など、地域に暮らす人たちだからこそ分かることに注目し、自分たちでよりよい地域を作る必要がある。

5、地方自治が行われる理由をまとめる。（5分）	T8:今日の授業を振り返って、なぜ住民自らが住民参加をして、地域の在り方を考えていくことが重要なのでしょうか。 T9:ロイロノートの提出箱に、これまでの学習を振り返って地方自治がなぜ行われるのかを記載したものを提出しよう。 S15:自分たちの地域であるから、地域の人たちの考えに沿っていることが大切だから。 S16:自分たちの地域のことは、自分たちで考えて実行し、将来に繋げていく必要があるから。 T10:地域を運営する主体である住民、地域の担い手として実態に興味をもつことや、地域の実態に沿った地方自治を行っていくことが必要ですね。	■身近な地域のまちづくりについて、住民自治の視点をもち、地域の担い手として主体的に社会に関わろうとしている。

7　本時の評価

① 評価方法　　ロイロノートで記入した記述で評価する。

② 評価規準　　身近な地域のまちづくりについて、住民自治の視点をもち、地域の担い手として主体的に社会に関わろうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】